

完了後の評価個表

整理番号	10
------	----

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	長野県
地域（地区）名	きそだに 木曾谷	事業実施主体	県、町村、森林組合、森林所有者等
関係市町村	あげまつ 上松町ほか5町村	管理主体	県、町村、森林組合、森林所有者等
事業実施期間	H23年度～H28年度（6年間）	完了後経過年数	5年

<p>事業の概要・目的</p>	<p>本地区は、長野県の南西部の木曾川流域に位置し、木曾郡上松町他2町3村を包括する。</p> <p>本地区の森林面積は144千ha（森林率93%）、対象民有林は55千ha（森林全体の38%）、うち人工林は26.5千ha（人工林率48%）であり、人工林の樹種別面積割合はカラマツが44%と一番多く、次いでヒノキが38%となっている。</p> <p>戦後の拡大造林により、森林の齢級構成は10齢級をピークとして、間伐及び主伐が必要な林分は人工林の90%にあたる約23千ha存在し、間伐や伐採後の更新等の森林整備の推進が喫緊の課題となっており、本地区内の森林の有する水源涵養機能や山地保全機能などの公益的機能を発揮するためには、森林整備を積極的に推進する必要がある。</p> <p>本事業は、利用期を迎えた森林資源を有効に活用しながら、森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるために必要な、搬出間伐を主体とした森林整備を実施したものである。</p> <p>・主な事業内容 森林整備 6,158ha 人工造林、下刈り、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>・総事業費 2,130,224千円（税抜き2,009,248千円） （平成22年度の評価時点 2,730,465千円）</p>
<p>① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<p>令和4年度における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、地域の要望を踏まえながら優先度の高い箇所から実行したことに伴う事業量の変動等によるものである。</p> <p>総便益（B）48,135,366千円（平成22年度の評価時点39,157,136千円※） 総費用（C）3,292,687千円（平成22年度の評価時点5,183,692千円※） 分析結果（B/C）14.62（平成22年度の評価時点7.55※）</p>

<p>② 事業効果の発現状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・間伐等により 6, 158ha の森林が整備され、水源涵養や山地保全等といった森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。また、高性能林業機械の導入及び促進により効率的な作業が行われ、木材が安定的に供給された。 ・森林整備事業の発注により雇用の場が提供され、地域の社会経済に貢献した。
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整備された森林は、森林経営計画等により継続して適切に管理され、良好管理状況にある。
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備の実施により良好な森林が形成され、水源涵養や山地保全、林産物の安定供給等といった多面的機能が発揮されている。
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>本地区の人口は、年々漸減傾向が続いている中で、令和3年度の林業従事者数は204人で、平成26年度の250人の82%となっている。</p> <p>こうした状況の中、林業の現場では、効率的で生産性の高い高性能林業機械を含む機械作業システムの導入が進められており、本地区の令和元年度末の高性能林業機械の保有台数は55台で、平成27年度の28台から27台増加している。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>森林資源が充実している中で、若齢林が少ない状況にあることから、木材の有効活用及び森林のもつ水源涵養等の公益的機能の高度発揮のためには、主伐の促進による生産性の向上や一貫作業システム等の導入による再生林の低コスト化等により適切な更新と確実な再生林を行い、年齢構成の平準化が必要となっている。</p> <p>地元の意見： （上松町ほか5町村）</p> <p>当地域の森林は、成長が遅く、特にヒノキ材は高齢級（10 年齢級以上）であっても、保育間伐を必要とする林分が存在していることから、高齢級林分の保育間伐等の施業区分について、継続的に充実した支援をいただきたい。</p> <p><small>おうたき</small> （王滝村）</p> <p>森林の有する多面的機能が持続的に発揮されるために、計画的な森林整備事業の実施が必要である。特に人工林においては伐期を迎えた森林が90%存在する為、林内路網の整備を行いつつ効率的に実施し、森林所有者の費用負担の軽減となるよう、造林の低コスト化に向けて取組を推進していただきたい。</p> <p>（上松町、木曾町、南木曾町、<small>きそ</small>木祖村）</p> <p>森林整備事業の実施により、土砂流出の防止や水源涵養機能等の公益的機能の発揮に寄与していると考えている。森林資源が充実している中で、若齢林が少ない状況にあることから、今後は、再生林も含めた計画的な森林整備を実施し、森林の有する多面的機能の継続的発揮に努めていただきたい。また、森林所有者の費用負担の軽減となるよう、造林の低コスト化に向けて取組を推進していただきたい。</p>

評価結果	<p>必要性：間伐等の森林整備等を通じて、水源涵養機能及び山地保全等が図られ、地域における水源地や、土砂の流出防止等に重要な役割を果たしており、事業の必要性は認められる。</p> <p>効率性：本地区の間伐材の搬出率は県平均を上回っており、効率的な森林整備及び路網整備の計画・実施が図られていると考えられる。</p> <p>有効性：森林資源の現状や路網の整備状況を踏まえた計画的な事業の実施により、森林の有する多面的機能が向上し、引き続きその効果が継続されていることから、事業の有効性が認められる。</p>
------	---

※平成 22 年度評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

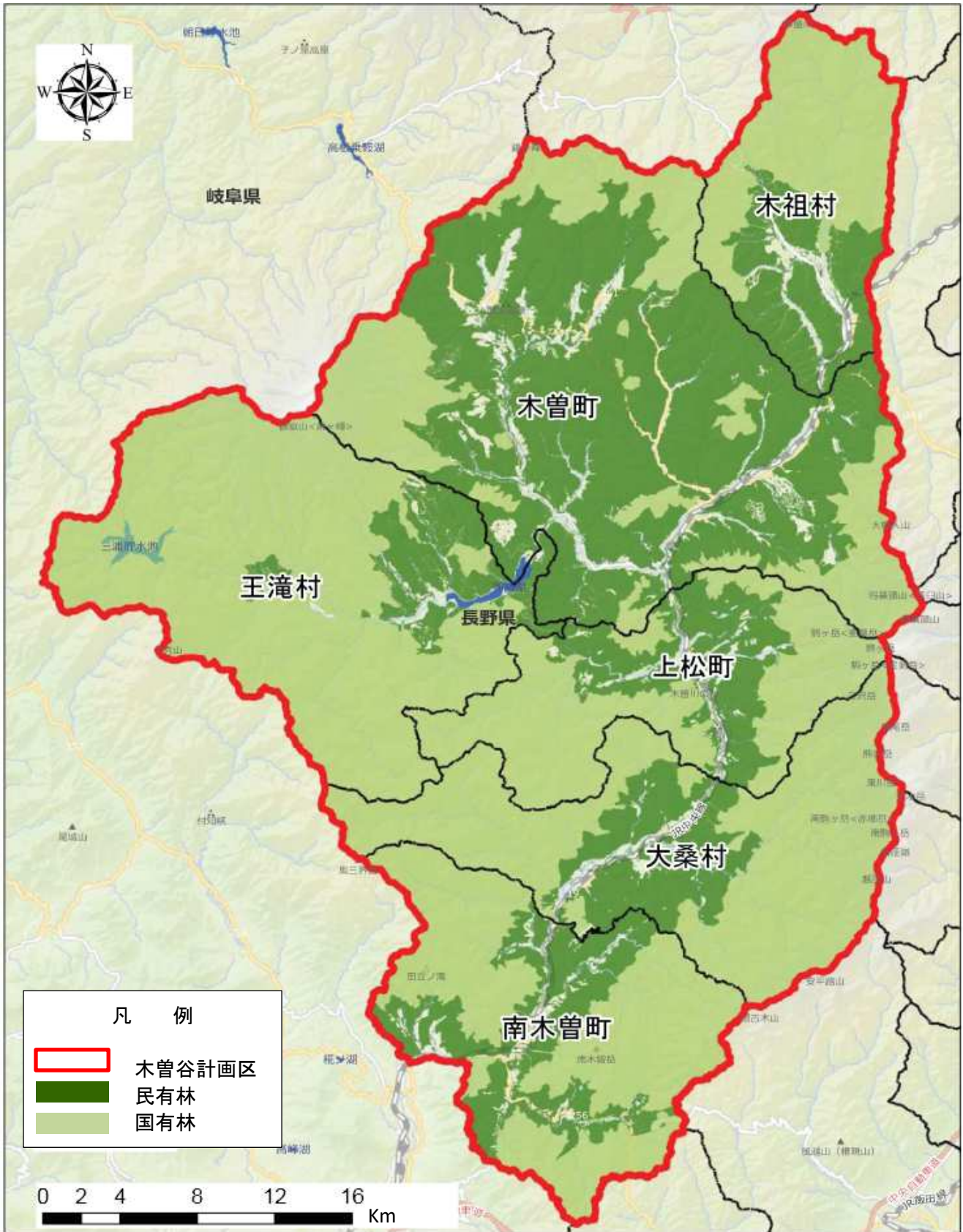
都道府県名：長野県

地域(地区)名：^{きそだに}木曾谷

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	9,471,774	
	流域貯水便益	5,131,168	
	水質浄化便益	19,576,942	
山地保全便益	土砂流出防止便益	9,572,277	
環境保全便益	炭素固定便益	398,451	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	3,984,754	
総 便 益 (B)		48,135,366	
総 費 用 (C)		3,292,687	
費用便益比	$B \div C = \frac{48,135,366}{3,292,687} = 14.62$		

森林環境保全整備事業 木曾谷流域(長野県) 概要図





間伐

整備前

撮影年度
平成27年度



間伐

整備後

撮影年度
平成27年度



間伐

現況

撮影年月
令和4年9月